

売上高は微増確保

3月期
決算

神戸合成
宮岡社長

液充ライ、調合設備増強へ



宮岡督修社長

要次のように語った。

自動用純正ケミカルの有力自家充填メーカー、神戸合成（兵庫県小野市）の宮岡督修社長は4月23日、同社の現況と当面の方針を大

一、2014年3月期決算における当社売上高・利益はともに前期比微増を確保、期待ほどではないが順調に成長している。消費増税前の駆け込み需要から新車販売が好調で、その恩恵から新車向けボディコート剤が大きく伸びた。そのほか純正用ケミカルの新規受

注も寄与し、更には昨春に参入した太陽光発電事業（0.2メガソーラー）もまるまるオンされた。エアゾール製品では昨春発売したボディコート剤「SGX01」が依然好調を持続している。エアゾール製品の通期販数量はトータルで200万缶弱、そのうち30〜40万缶を自家充填、残りは協力口

に委託している。

一、当社工場のエアゾール充填設備は真砂エソジニアリンク製圧力3ヘッド機を中心とした1ライン（日産1500缶能力）。現在本社工場内の液充ライン増設工事中にある。半自動のボトル充填ラインを全自動化し、1日4000本能力に増強（包装ラインのみエアゾール充填ラインと連結する）もので、充填スピード・生産能力・利益性を向上させる。更には今期中、同工場に調合釜およびスト

レージタンク2基を導入予定で、ワックス用エマルジョン原液の内製化も進める。これら積極的な設備投資は当面の通期目標である売上高20億円達成への足掛かりとするもので、営業スタッフも大幅増員して業容拡大を目指す。今期は増税駆け込み需要の反動も懸念されるが、付加価値商品開発に集中、ボディコート剤など価格競争に巻き込まれない新製品開発で生き残りを図る。